

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

帯広畜産大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、3項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況が不十分である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「獣医・農畜産に関する幅広い基礎知識と技術を体験・修得させるため、柔軟なアドバンス制（段階的・自主選択教育課程制度）の運用により、「共通教育」の更なる充実を図る」について、約 8 割の教員が全学農畜産実習等の特色ある共通教育に参加していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「関連産業等におけるインターンシップ（就業体験）の機会や社会人の U ターン的な再教育の充実を図り、動物由来感染症及び食肉乳衛生の防疫等に係る専門職業人としての基盤的能力の高度化を図る」について、実務家を対象にした幅広い研修プログラムの提供とその内容の充実に努めていることは、特色ある取組であると判断される。

（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）

- 平成 16 ～ 19 年度の評価において、
中期計画「卒業・修了生の就職先に対するアンケート調査を行い、教育の成果・効果を検証するとともに、その結果は、教育課程編成及び授業方法の改善に役立てる」について、卒業生、修了生に対するアンケート調査が、教育の成果及び効果の適切な検証につながっていないことから、改善を要することが望まれると指摘したところである。
平成 20、21 年度においては、平成 21 年 3 月に卒業・修了生を対象にアンケートが行われており、その集計結果を FD 研修会で検討し、その議論を踏まえ、到達目標を明確にしたシラバスの見直しや修士 3 専攻のコース設定等の改善に役立てていることから、当該中期計画に照らして、改善されていると判断された。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「卒業・修了生の就職先に対するアンケート調査を行い、教育の成果・効果を検証するとともに、その結果は、教育課程編成及び授業方法の改善に役立てる」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、卒業生、修了生に対するアンケート調査が、教育の成果及び効果の適切な検証につながっていない点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては改善されており、「おおむね良好」となった。（「平成 16 ～ 19 年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況」参照）

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6 項目）のうち、2 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」、1 項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」、1 項目が「不十分」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「大学院畜産衛生学専攻を基盤として、包括的かつ国際的水準の教育課程を構築する」としていることについて、「食の安全確保」に向けた獣医・畜産融合の教育研究の展開のために、畜産衛生学専攻博士課程を設置し、獣医学と畜産学の分野横断的カリキュラムの編成、英語による討論、海外インターンシップ演習及び専門家による特別講義等、多様な教育体制を導入したことは、設置目的の達成に向けた取組

が十分に機能している点で、優れていると判断される。

- 中期計画で「専門教育の基礎となる多様性の尊重、自律性の向上及び人格教育を柱としたアドバンス制の基盤教育、共通教育及び展開教育を基礎とした教育課程の更なる充実を図る」としていることについて、新入生全員を対象とした全学農畜産実習の取組は、目的意識・職業意識の向上、人間関係やコミュニケーション能力を育むという点で十分に機能しており、優れていると判断される。

（改善を要する点）

- 中期計画「成績評価基準及びその方法について、学生の意識調査等を行いつつ、更なる改善を図る」について、平成 21 年度に成績評価基準及び評価方法の改善策を講じることを目的とした成績評価に関するアンケートが実施されているが、アンケートの実施に基づいて、更なる改善が図られたとは認められないことから、中期計画は十分には実施されていないと判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「【学士課程】専門職業人として必要不可欠なフィールドにおける学習の更なる充実を図るため、より生産現場に近い実践的教育を推進する」について、1 年次生全員を対象とした全学農畜産実習は、農場がキャンパスに隣接しているという地の利を十分活かして行っている点で、特色ある取組であると判断される。

（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）

- 平成 16 ～ 19 年度の評価において、
中期計画「成績評価基準及びその方法について、学生の意識調査等を行いつつ、更なる改善を図る」について、学生の意識調査が十分に実施されていないことから、改善を要することが望まれる
と指摘したところである。
平成 20、21 年度においては、平成 21 年度に成績評価基準及び評価方法の改善策を講じることを目的とした成績評価に関するアンケートが実施されているが、アンケートの実施に基づいて、更なる改善が図られたとは認められないことから、当該中期計画に照らして、改善されていないと判断された。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから「中期目標の達成状況がお

おおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「教職員の配置の運用に関しては、学長が定める基本的な方針に基づき、役員会が配置運用計画を策定し学長が決定する」としていることについて、学長のリーダーシップの下に、大学の基本戦略に基づいた教員配置を実施できる体制を構築したことは、必要に応じた柔軟な人事が可能となり十分に機能しているという点で、優れていると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16～19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「学習・生活・就職支援及び経済的支援等の担当教職員の配置数及び支援業務内容について不断なる評価を実施しつつ、学生支援方法等の質的向上に取り組む」としていることについて、全学農畜産実習のほか基礎学術セミナーにおいて、学生 10～20 名に対して 1 名の教員をあてる少人数グループによる学生支援体制を構築していることは、学生は履修指導、ユニット選択及び生活全般において効果的なさまざまな指導・助言をきめ細かく受けられ、支援の質の向上が図られている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画で「大学独自の奨学金制度の創設に取り組む」としていることについて、帯広畜産大学後援会からの助成を受けており、国際連合大学私費留学生育英資金貸与事業への参加等により奨学金制度の充実を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

（参考）

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「地域社会の農畜産由来のバイオマス資源における生産・収集・変換・利用の確立に結びつく技術・施策に関する基礎的・応用的な研究を推進する」及び「地域共同研究センター」を設置し、共同研究や受託研究など地域地場産業や地域研究機関等と連携協力する拠点とする」としていることについて、21世紀COEプログラムを基盤に、世界的水準の中核的研究教育拠点として畜産衛生学専攻博士課程を設置したほか、原虫病研究センターにおいて国際獣疫事務局（OIE）のリファレンス・ラボラトリーに認定されたことは、国際水準の研究成果の向上が認められた点で、優れていると判断される。また、研究成果の社会への還元に関して、畜産フィールド科学センター、地域共同研究センター、全学研究推進連携機構を設置したことは、これらの活発な活動を通じ、受託研究や共同研究の受入れ件数及び受入れ金額ともに増加しているほか、競争的資金の受入れ等外部資金の獲得率が高くなっている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画で「自然・市場・人間社会環境との相互作用機構及び持続的発展方向に関する複合領域的研究を行う」、「地域農畜産研究機関と連携して農畜産由来のバイオマス資源に関する基礎的・実践的研究を推進・公表する」及び「地域共同研究センター」を設置し、共同研究や受託研究など地域地場産業や地域研究機関等と連携協力する拠点とする」としていることについて、十勝地域の農業生産の向上、生産物の活用及び高付加価値化を図る観点から重点研究課題を設定していることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、2 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「教職員の配置の運用に関しては、学長が定める基本方針に基づき、役員会が配置運用計画を策定し、学長が決定する」及び「研究活動における質の向上を一層促進する業績評価システムに関する調査検討を行い、質の高いシステムの構築を目指す」としていることについて、学長のリーダーシップの下、任期制適用の拡大を含む柔軟で重点的な人材配置を可能とする体制を構築したことは、実質的に機能している点で、優れていると判断される。また、平成 14 年に導入した、教員の業績を多元的側面から客観的に評価することを目的とする多元的業績評価システムを改善し、教員の採用、昇任、賞与、昇給に利用し、活用範囲を広げ機能性を高め進化させたことは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画で「大学の独創的基盤研究成果（研究シーズ）と社会のニーズを基にしたプロジェクト研究を中心とした産学連携に係る学内共同研究を推進する」としていることについて、地域共同研究センターを中心に、他大学との連携を強化したほか、地域の中核的研究機関としてスクラム十勝の結成等、地域における畜産業の課題解決に向けた研究を推進していることは、特色ある取組であると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「「地域共同研究センター」における地域の農畜産業に対するコンサルティング機能を強化して、地域産業に密着した問題解決に一層貢献する」及び「地域社会との連携を一層促進するとともに、地域の自治体等との間で幅広く包括する継続的かつ総合的な連携体制の構築に取り組む」としていることについて、地域共同研究センターにおける地域産業に密着した問題解決への取組、また、地域貢献推進室の設置及び帯広市との協定締結等による組織的な地域貢献活動の推進は、共同研究、受託研究が大幅に増加したほか、技術相談件数の増加、科学技術振興調整費による地域再生人材育成事業の採択等の実績を挙げている点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「「サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）事業」及び「スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業」などの高大連携を推進するとともに

に、大学開放事業等の充実を図る」としていることについて、高大連携における、スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業帯広柏葉高等学校連携講座及びサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業（SPP）等を中心としたさまざまな事業を展開していることは、地元高等学校からの入学志願者数の大幅な増加等につながるなどの成果を挙げている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画で「国際協力機構（JICA）の事業である各種研修の実施については、「国際開発協力オフィス」（仮称）を設置して、全学協力体制のもとで更なる充実を図る」について、国際協力機構（JICA）等との連携協力協定を締結したことは、学生の教育、研究の展開、国際共同研究、国際協力等の高度化、活性化に効果的に活かしている点で、特色ある取組であると判断される。